

社会教育

ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業
表彰式



「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」表彰式

CONTENTS

- ◆ 特集 1
「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」
- ◆ 論説 3
「ふくしまからはじまる新しい学び」
一般社団法人ふくしま学びのネットワーク
理事・事務局長 前川 直哉 氏
- ◆ 輝け！社会教育 4
郡山市婦人団体協議会会長 小林 清美 氏
元「おのだなかよし教室」コーディネーター 鈴木きよ子 氏
郡山市大島地域公民館
福島市蓬萊学習センター
いわき市立草野小学校父母と先生の会
喜多方市立熊倉小学校父母と教師の会
南相馬市立石神第二小学校父母と教師の会
北塩原村学校支援地域本部
大玉村放課後子ども教室
川内村放課後子ども教室
会津若松市立会津図書館
読み聞かせボランティアグループ手のひらの会
- ◆ 平成28年度社会教育関係各種表彰受賞 10
- ◆ 平成29年度福島県社会教育施設行事予定



賞状伝達



作品発表

特集 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

平成14年度から実施してきました「十七字のふれあい事業」が、新しい名前になり、バージョンアップしました。本事業は、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上のために、人と人のかかわりの中で感じた思いや願い、震災からのさらなる復興を願った「ふくしま」への思い等を綴った十七音の作品を募集し、県内外に広く発信するものです。今年度は、昨年度を上回る「41, 502組」の応募があり、各部門、最優秀賞5組、優秀賞5組、佳作10組が表彰されました。また、入賞した作品は、ユーチューブ等で広く県内外に発信されます。

バージョンアップ I

2部門に

福島県内の各市町村教育委員会や避難者支援課を通して県内外に募集をする。

○絆（きずな）部門

※日常生活等での共通体験を通じた十七字

絆

思いやり、協力、奉仕、感謝、郷土愛等

共通体験による絆構築

二人一組で応募

- ・子どもと大人
- ・子どもと子ども

○復興部門

※震災、復興・復旧に関する十七字

復興

ふくしまへの思い、震災、復興、復旧、支援に対する感謝等

震災をとおして感じた思い

- ◇子どもの豊かな心の育成、家庭や地域の絆の再確認
- ◇ふくしまへの思い、帰属意識、震災を忘れない気持ち

バージョンアップ II

作品の発信

YouTube

ユーチューブによる作品の発信



ラジオ放送による作品の発信

最終審査に残った作品の作品集を各学校や応募した避難者に配付

震災

ふくしまへの思い、帰属意識、帰還への一助

最優秀賞

「絆部門」「復興部門」の優秀作品を表彰しました。最優秀賞（各部門5組）、優秀賞（各部門5組）、佳作（各部門10組）の中から最優秀賞10組を御紹介します。

【絆部門】

足音でいいことあった？ 今日のこと
 (坪根智恵子)

ただいまとなんでわかるの？ お母さん
 (坪根 未空 いわき市立藤間中学校三年)

母と子

「ガンバレ」のメモと一緒に朝ごはん
 (橋本 倫花 鏡石町立鏡石中学校三年)

「ありがとう」メモと一緒に皿洗い
 (橋本 典子)

子と母

手際よくトントン切りたい 母の上に
 (大竹 藍矢 吹町立矢吹中学校一年)

切れてない 胡瓜と笑いを盛るサラダ
 (大竹登志江)

子と母

父の背と続く木道 尾瀬の空
 (藤井 花須賀 川市立第一中学校一年)

ふり向けば 広がる湿原 子の笑顔
 (藤井 義朗)

子と父

弟は母ひとりじめ ぼくがまん
 (佐藤 海斗 郡山市立行健小学校四年)

すまないと手にこめなでる 月あかり
 (佐藤 宏美)

子と母

【復興部門】

海の音聞こえる心に変化あり
 (大嶋 花音 いわき市立中央台北中学校二年)

海開き えがおがもどる うれしいな
 (大嶋 音生 いわき市立郷ヶ丘小学校四年)

姉と弟

只見線 未来に向かって 走り出せ
 (梁取 ゆず 只見町立只見中学校一年)

つなぐれと 只見の空に 汽笛鳴る
 (梁取 綾)

子と母

五年たち 母の背だけに おいついて
 (星 杏奈 会津坂下町立坂下南小学校六年)

五年たち ふきもみようがも 食卓へ
 (星 博美)

子と母

やっぱりね 地元のはおいしいね
 (佐藤 倫己 桑折町立半田醸芳小学校六年)

安心を 食べるしあわせ かみしめる
 (佐藤 淳子)

子と母

一本松 ぼくも同じく 負けたくないよ
 (室 凜太郎 白河市立白河第三小学校三年)

立ち姿 息子と重なる 一本松
 (室 美保)

子と母

<総 評>

十七文字の世界に自分の心を託して、それをきちんと大切な人に渡す。それを受け止めた人がまたきちんとお返しをする。大切な家族との心のキャッチボールに、涙したり、笑ったり、憧れたり…、素晴らしい作品にとても感動させていただきました。

日ごろから家族と素敵な時間を過ごして、互いに信頼し合っているからこそ、それが言葉に宿り、私たちに感動を与えてくれるのだと実感いたしました。

私たちは言葉の中で暮らして、支え合って生きています。しかし時に、私たちの心は言葉の先にあるときがあります。だから言葉に出来ないことがたくさんあります。

しかし言葉に出来ないものを、心の引き出しにしまっせず、大切な誰かと一緒に開けることで、それを手にすることが出来るのです。それは二人の宝物になるのではないのでしょうか。そのことをみなさんの作品を通して、教えてもらったように思います。

日々の暮らしの中に、大切な心の瞬間があります。

それをたくさん見つけていって、大切な人と微笑みあい、生きていることの素晴らしさと、言葉の大切さを、ぜひ実感してほしいこれからも願っています。(審査員一同)

一般社団法人ふくしま学びのネットワーク

理事・事務局長

前川 直哉 氏



私はもともと神戸市にある中高一貫校の教員でしたが、東日本大震災と福島第一原発事故後、福島の子どもたちの学習支援活動を行いたいと考え、2014年に学校を退職し福島市に転居してきました。同年4月に非営利団体「ふくしま学びのネットワーク」を設立し、県内の高校生を対象とする学習法の無料セミナーや英語・数学合宿などの活動を行っています。福島の子どもたちの多くは、震災と原発事故のときにたくさんの方に支えられたという経験から、「今度は自分が誰かの力になりたい、支える側に回りたい。そのために力をつけたい」という思いを抱いています。こうした気持ちに応えるため、無料セミナーや合宿には毎回、全国的に有名な超一流の先生方がボランティアで福島まで駆けつけてくださり、福島の高校生たちに熱心に指導してくださっています。

また、福島には「誰かの力になりたい」という思いを実行に移し、自らの手で復興や地域おこしなどの社会活動に熱心に取り組んでいる子どもたちが大勢います。「ふくしま学びのネットワーク」では、地域や社会を良くしようと活動する高校生たちを顕彰する「ふくしま高校生社会活動コンテスト」を、東京大学の研究組織 REASE と連携して実施してきました。昨秋のコンテストでは、土湯温泉の復興に向け新た

な魅力を創出しようと奮闘するグループや、営業を再開した JR 常磐線・新地駅の駅前を高校生の手で活性化するプロジェクトなどが活動を発表し、最優秀賞や優秀賞に輝きました。これらの活動はどれも、高校生の企画とは思えないほど完成度の高いものばかりですが、こうした活動の意義は復興や地域おこしへの貢献のみに留まりません。地域や社会が抱える課題を自ら発見し、その解決のために何が必要かを考え、実行するという新しい学び、「課題解決学習」そのものなのです。

福島県教育委員会は子どもたちのこうした活動をさらに広げていこうと、社会教育課による「子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業」を2015年度から開始し、県内各地で大きな成果が生まれています。この「応援事業」は全国でも先駆的な、子どもたちの課題解決学習を地域社会全体で応援する新たな「福島モデル」に繋がっていくと私は考えています。

自分のためだけではなく、誰かのために、子どもたちが学び、活動する。地域の大人たちがそれを応援する。そんな「新しい学びの形」を福島から全国に広げていきたいというのが、私たち「ふくしま学びのネットワーク」の願いです。

プロフィール

1977年2月13日兵庫県尼崎市生まれ。

灘高校3年在学時に阪神・淡路大震災で被災。

東京大学教育学部卒業、京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。京都大学博士（人間・環境学）。

灘中学校・高等学校教諭（地歴・公民科）在職時に起こった東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の後、勤務校の生徒とともに福島・宮城の被災地域を訪れる「東北訪問合宿」をくりかえし実施。

2014年3月 担任学年の卒業にあわせ同校を退職し、4月より福島県福島市に転居。

現在

一般社団法人ふくしま学びのネットワーク理事・事務局長、および東京大学大学院経済学研究科特任研究員。研究での専門はジェンダー・セクシュアリティの社会史。

著書に『男の絆：明治の学生からボーイズラブまで』（単著・筑摩書房）などがある。

2015年より福島県において多様性（ダイバーシティ）の重要性を議論する市民団体・ダイバーシティふくしまを立ち上げ、共同代表を務めている。

輝け 社会教育

社会教育功労者文部科学大臣表彰

社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞して

郡山市婦人団体協議会会長 小林 清美 氏

このたび、社会教育功労者文部科学大臣表彰を受けたことは、身に余る光栄です。

これもひとえに社会教育関係者各位の御指導と御支援のお陰と心から厚く感謝を申し上げます。

思えば、昭和58年に地域婦人会の一員として、仲間とともに公民館を拠点として活動を始めたことが契機となり、平成十七年に郡山市社会教育委員となり、他の委員の方々と共に「社会教育委員の一番大事な役割」などの諸々の課題に取り組んでまいりました。

そのような中、社会情勢の変化や東日本大震災の影響などで、未来を担う子どもの健全育

成環境について、家庭、学校、地域が一体となった取り組みが求められるようになりました。私も「子どもたちに大人の背中を見せながら、温かく見守り、健全な育成環境を育みたい」という思い

で、諸々の活動に取り組んできました。

今後においても、この表彰を機に、決意を新たに、更なる社会教育の発展と子どもの健全育成環境の推進に取り組んでまいりたいと思います。



社会教育功労者文部科学大臣表彰

社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞して

元「おのだなかよし教室」コーディネーター 鈴木 きよ子 氏

この度の受賞は、多くの皆さまのご支援・ご協力のお陰と、心より感謝を申し上げます。

放課後子ども教室(おのだなかよし教室)は、子どもたちが放課後安心して過ごすことができる「居場所づくり」として、平成17年に始まり、現在、12年目を迎えます。私は、偶然にも社会教育委員を受けて、共に歩んできた思いです。

この教室の活動は、月10日前後となっております。子どもたちの自主性を尊重し、宿題をする子、オセロ等のゲームをする子、安全管理員の手づくりの玩具や体育館で遊ぶ子など、さまざまです。いつも安全管理員が、ケガや事故が起きないように見守っています。

これらの他に、年中行事を取り入れ、七夕

さま、お月見さま、だんごさしを実施し、昔ながらの行事を伝承し、大切にしていける心が育つよう努めています。

行政は勿論ですが、学校の協力が大きく、心から感謝しているところで

す。「子どもは地域の宝」です。私たち大人が学校や家庭で目が届かないところをサポートし、社会性を身に付け、素直で思いやりのある子どもに育ってほしいと願っております。「子どもの居場所であり、大人の居場所でもある。」の言葉を胸に頑張ります。



輝け 社会教育

優秀公民館文部科学大臣表彰

郡山市大島地域公民館の活動紹介

郡山市大島地域公民館

大島地域公民館では、「地域連携による支えあう地域づくり」を基本理念に、地域組織と支えあいの連携事業を行っています。「大島クリスマスふれあいコンサート」は人間関係の希薄化や地域の活力の低下が叫ばれる中「地域の課題解決」や「誇り」につながり、そして、「楽しいこと」を視点に考えられた事業です。



公民館がコーディネートした地域組織と学校による実行委員会が、地域が一体的に盛り上がることのできるイベントを企画・運営し、また、公民館は、地域で活躍できるボランティア

を事業により育成するなど、コンサート運営が円滑に進められるようサポートを行います。こうした取組みを継続的に行うことで、本事業は、大島地域の冬の風物詩となり、実行委員会やボランティアも定着し、地域活力の向上にも大きく貢献しております。

今後も、地域の皆さんにとって一番身近な「小さな町内会（公民館）」として、地域の声に耳を傾け、時の課題に向かいあいながら、「共に支えあい」の地域づくりを行っていきたいと思います。



優良公民館文部科学大臣表彰

福島市蓬萊学習センターの活動紹介

福島市蓬萊学習センター

蓬萊学習センターは、福島市中心部から7kmほど南部の緑豊かな新興住宅地、蓬萊ニュータウン内に立地し、近くには福島県立医科大学と福島大学があります。

当センターは、地域住民の皆さんの多様化する学習ニーズに応じた各種事業を展開し、「誰もが」「いつでも」「気軽に」施設を利用できる環境を整えることによって、地域住民相互の「きずな」づくりのよりどころとなることを目指しておりますが、その中でも特色のある事業「ほうらい科学クラブ」をご紹介します。

この事業は、地域内に在住する福島大学理工学群の教授が、子どもたちに「身近にある物を使った実験を通じて学校では体験のできない科学のおもしろさを」という願いから始まった事業で、昨年20年目を迎



えた歴史ある事業です。

学習内容は、その時々々のタイムリーな内容（例えばノーベル賞受賞テーマなど）を盛り込み子どもたちが興味を持って楽しく「科学」することができるように工夫しています。

今では、このクラブに参加した子どもが大学生となって助手として学習内容の企画や子どもたちの指導に携わるといった流れも出始めており、地域内での新たな人と人のつながりの広がりにも一役買っています。

今後も地域内の大学と積極的に連携を図ることでさらなる事業の充実を図り、学習センターが子どもたち同士や地域との交流の拠点として、よりより地域社会を次世代につなぐ橋渡しをしていきたいと考えております。



輝け 社会教育

優良PTA文部科学大臣表彰

いわき市立草野小学校父母と先生の会の活動紹介

いわき市立草野小学校父母と先生の会

本会は昭和22年「草野小学校父母と先生の会」として設立し、PTAによる登校時の交通安全指導、育成会スキー教室開始協力支援、PTA教養委員会による読み聞かせ等と活動幅の拡大を経て現在に至っている。

本校のPTA活動の代表的なものとして、全専門委員会が一丸となって運営する「子ども秋祭り」があり活動事例の一つとして紹介したい。

春、学校田の学習を本部役員と施設委員会及びPTAのOBが支援することから活動がスタートする。OBの農家の方が、種まき、田植え、稲



刈りという一連の作業をサポートし、子どもたちに丁寧に指導して下さる。

そして、秋には稲刈りの体験を兼ねて餅米が収穫される。

秋祭り当日には全専門委員が役割を分担し、収穫した餅米を使って餅つきを行い、子どもたちとともに収穫の喜びを味わう。また、多数のOBも来場し、運営をサポートする。子どもたちは祭りを通して収穫の喜びを味わうのは勿論、自分たちが保護者や多くの地区の方々に見守られ、支えられていることを実感する貴重な機会となっている。



優良PTA文部科学大臣表彰

喜多方市立熊倉小学校父母と教師の会の活動紹介

喜多方市立熊倉小学校父母と教師の会

栄えある文部科学大臣表彰は、本校PTAの歴史において最大の栄誉であると思います。これは、長年に渡る活動が評価されたものですが、正に「継続は力なり」の現れだと感じております。

本校PTAは、会員数は少ないですが団結力の強さが自慢です。今回の表彰は、保護者と教師・地区団体との連携による朝のあいさつ運動、交通安全街頭指導や学校・家庭・民生児童委員会等と連携した登下校の見守り活動、危険箇所の調査と立て看板の設置、避難の家の協力依頼、PTA主催の資源回収の実施、PTA会報や学校だよりの地区回覧等を長年実施してき



たことが評価されたものと考えております。活動自体は、何も特別なことを実施しているわけではありませんが、全会員参加による活動を途絶えることなく実施することができました。脈々と次へとつながれるのは、本校PTAの良き伝統であると言えます。

本校PTAは、平成18年に福島県教育委員会表彰を受けておりますが、その時から十年目となる節目の年にこのような最高の栄誉を頂いたことは、今後のPTA活動への励みであり熊倉っ子の健全育成に努める思いを新たにしました。



輝け 社会教育

優良PTA文部科学大臣表彰

南相馬市立石神第二小学校父母と教師の会の活動紹介

南相馬市立石神第二小学校父母と教師の会

この度「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞することができ、大変光栄に感じております。本PTAの会員数は保護者、教諭をあわせまして220名程度であり、南相馬市の小学校では会員数が多い地域ではありますが、学区内に避難勧奨地域があった事なども影響し、児童数は震災前の6割程度しか回復していません。その様な学校の状況ではございますが、PTA活動につつまして御報告したいと思います。

震災以前より地域と学校が密接なかかわりを持っていた事から、市民の皆さんと保護者が共同して活動を行うことも多くありました。子供たちの安全を図るための、交通指導もその一つでありましたが、震災により継続していくのが難しく一時中断しました。しかし通学路の交通量の増加と、事故の状況を鑑みまして、会員での朝の交通指導を復活し、交代で交差点に立って子供たちの通学時の安全を確保する活動を行っています。



奉仕活動では子どもたちの教育環境の整備のために年に3回行っており、毎回多くの皆さんに協力して頂いています。また、教育活動を推進する資金として資源回収活動を行っております。これは大きく全体での回収を行うのみならず、学校の倉庫を一部お借りし、年間を通じて紙類などの回収を行い、その資金などから、親子の鑑賞教室の開催や、子どもたちの国語力の向上のために国語辞典の購入配布などを行っております。

その他に交流事業として、スポーツ交流会を開催し、保護者同士のコミュニケーション強化を図り、顔の見えるPTAを心がけております。また、地域の文化祭や活動にもPTAとして積極的にかかわっており、市民の皆さんとの交流も盛んにおこなっております。子どもたちの健全なる育成と、安全、安心な学校をめざして、今後も努力してまいりたいと思います。



「地域学校協働活動」文部科学大臣表彰

北塩原村学校支援地域本部の活動紹介

北塩原村学校支援地域本部

北塩原村学校支援地域本部では村の「笑顔いきいき みんなで子育て宣言」のもと、学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てる『学校の応援団』事業を平成23年度から取り組んでいます。

当初は、アンケートをとったり、公民館事業を移行したり、手探り状態でしたが2年目以降からは、少しずつ活動の幅を広げてきました。

今では、村内6つの幼稚園～中学校までそれぞれの特徴に合わせた支援ができるようになりました。特に図書ボランティアの活動は読み聞かせ、図書環境整備を含めると全ての学校で実施しています。

また、小学校では自然体験学習を通して裏磐梯地区をフィールドとし、ガイドの方と一緒に五色沼や小野川不動滝、雄国沼、猫魔ヶ岳、磐梯山と各学年に合わせた散策を行っています。冬にはスキー教室があるのも特徴的です。



中学校の文化祭では、異世代交流と称して、高齢者の方々が講師になり、生徒たちは囲碁・将棋や華道・茶道などを教わることで文化にふれる機会ができました。地域の文化・自然の宝の共有ができるのも、この活動の素晴らしいところです。

また、毎朝、子どもたちが集団登校する際に、地域住民によって結成された「子ども見守り隊」による見守り活動もあり、元気なあいさつ運動から地域のコミュニティが育まれています。平成27年度は、16団体、個人登録93人、支援回数293回、述べボランティア数1612人でした。

これまでご協力いただいたボランティアの方々に感謝するとともに、今後ともより一層のご協力をいただき更なる地域コミュニティの充実に努めていきたいと思っております。



輝け 社会教育

「地域学校協働活動」文部科学大臣表彰

大玉村放課後子ども教室の活動紹介

大玉村放課後子ども教室

大玉村放課後子ども教室は、平成21年度に始まり、地域の多くの方に支えられながら様々な活動を行い、実施から8年目を迎えることができました。そして、この度、この間の活動内容を評価いただき、平成28年度文部科学大臣表彰を受賞いたしました。ボランティアの方々をはじめ関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

各校区に設置されている子ども教室では、コーディネーター等を中心に、年間計画に基づき毎週金曜日の放課後、物作り・畑の活動・運動・食育や調理・社会学習など多岐にわたり体験的な活動に取り組んでいます。また、職員だけではなく、ボランティアのみなさんから体験的な活動のアイデアも出され、ボランティアのみなさんにとっても



充実した活動となり、学びの還元と循環が図られております。そして、このように充実した豊かな活動を支えてくださるのが、活動ボランティアをはじめ、外部講師や地域で活動するサークルの方々です。それによって、子ども教室の活動が充実するばかりではなく、子どもたちと地域住民とのよい交流の場にもなっております。

また、児童・保護者・ボランティアへのアンケート実施の他に、子ども教室運営委員会の開催により、色々な立場の方からご意見をいただき活動に生かしております。今後も学校・地域と連携し活動の充実を図るとともに、子どもたちの安心・安全な居場所づくりを目指してまいります。



「地域学校協働活動」文部科学大臣表彰

川内村放課後子ども教室の活動紹介

川内村放課後子ども教室

このたび、川内村放課後子ども教室が文部科学大臣表彰を受賞できたことは、震災後の立ち上げ当初から御協力いただきましたあらゆる関係者の方々の御尽力の賜物であり、深く感謝の意を表します。

川内村放課後子ども教室は、大震災・原発による全村避難後、帰村した子育て世帯に対し、放課後における子どもたちの安全で安心な居場所を確保するとともに、スポーツや文化活動等の体験活動や地域住民との交流活動の機会を提供し、学ぶ意欲を持ち続けられるよう学習機会の提供を図ることを目的に実施されております。

対象は、川内小学校の児童1年生から6年生までで、震災前の子どもたちの人数には戻っ



ておりませんが、徐々に人数も増えてきており、平成28年度の登録人数は、子ども35人、スタッフ13人となっており、1年間を通して教室を開催しております。

教室での活動は、①宿題・自主学習支援 ②室内遊び ③運動・スポーツ ④各種体験教室開催 ⑤夏休み・冬休み等支援などですが、子どもたちの学力向上や人間形成など豊かな体験活動の場所としても期待が高まっております。

今後とも「子どもファースト」の精神で、放課後子ども教室事業を運営し、地域の方々と共に、未来の子どもたちを育てていきたいと思っております。



輝け 社会教育

子どもの読書活動優秀実践図書館・団体文部科学大臣表彰 会津若松市立会津図書館の活動紹介

会津若松市立会津図書館

当館は、開館112年目を迎え、中央公民館との複合施設として開館5周年を迎えました。

平成23年3月に策定した、市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもの読書活動の推進に取り組んでまいりました。

小学生を対象とした「会津図書館を使った調べる学習コンクール」の開催は、今年度で3回目となり、応募数も年々増加し、今回は全国コンクールで初めて「優良賞」を頂きました。子どもたちの主体的に学ぼうとする意欲を醸成し、本を読み、深く考え、言葉を選び、まとめる能力の向上に寄与しているものと考えております。

また、中学生・高校生を対象とした「会津ビブリオバトル」の開



催は、読書活動の充実や表現力などを育むとともに、プレゼンテーション能力の向上に一役を担っております。

さらに、ボランティアとの協働により、健康福祉部との連携事業「ブックスタート事業」において読み聞かせを実施するとともに、読み聞かせのボランティアを養成する「読み聞かせ講座」や学校図書館でのボランティアを養成する「図書館ボランティア養成講座」を開催して、人材育成に努めております。

今後とも、「読書で豊かな未来をひらくあいづっこ」を目指し、地域全体で連携・協力し、子どもたちの読書活動の推進に取り組んでまいります。



子どもの読書活動優秀実践図書館・団体文部科学大臣表彰 読み聞かせボランティアグループ手のひらの会の活動紹介

読み聞かせボランティアグループ手のひらの会

平成28年度文部科学省大臣表彰を拝受の栄えを頂戴し、身に余る光栄と感激しております。この活動は皆様方から活動の場所を提供くださり、温かく受け入れて下さる賜物と心から感謝申し上げますと共に、深く御礼申し上げます。

平成13年に発足した当初は公民館の児童向けの本も少なく、そんな環境でのスタートでした。行政の支援を頂き、公民館の一室をお借りして「子ども文庫」開設。読み聞かせ“どこでもおはなし会”を開催。読書は“心のごはん”生きる力の源を合言葉に、読み聞かせから自由読書に繋げていきたいと町内の幼小中学校、高齢者



への読み聞かせを実施してきました。

現在は、それに加え乳幼児対象のブックアドバイザー、中学校読み聞かせボランティアクラブの支援も行なわせて頂いております。

現在、町立もっていない図書館も開館し、これからも行政と連携して読み聞かせ活動はもちろんのこと、親子での読書の楽しみ方や図書館の利用の推進、町の伝説や民話の掘り起こしを通じて世代間理解と啓発に努めていきたいと考えております。

最後に皆様方にも良い本との出会いがありますよう祈念申し上げ、活動の紹介といたします。



平成28年度社会教育関係各種表彰受賞

表彰区分	被表彰者氏名・被表彰団体名	受賞月日	表彰者
社会教育功労者	郡山市婦人団体協議会会長 小林 清美 氏 「おのだなかよし教室」コーディネーター 鈴木きよ子 氏	11月10日	文部科学大臣
優秀公民館	郡山市大島地域公民館	3月1日	
優良公民館	福島市蓬萊学習センター		
優良PTA	いわき市立草野小学校父母と先生の会 喜多方市立熊倉小学校父母と教師の会 南相馬市立石神第二小学校父母と教師の会	11月18日	
地域学校協働活動	北塩原村学校支援地域本部 大玉村放課後子ども教室 川内村放課後子ども教室	12月8日	
子どもの読書活動優秀実践図書館・団体（個人）	会津若松市立会津図書館 読み聞かせボランティアグループ手のひらの会（矢祭町）	4月23日	
社会教育功労者	福島県婦人団体連合会評議員 湯田 直子 氏 相馬市社会教育委員の会議議長 遠藤百合江 氏 ガールスカウト福島県連盟顧問 川瀬トキ子 氏	11月2日	福島県教育委員会
功績顕著な団体・施設	【団体】 三春町立中郷小学校父母と教師の会 猪苗代小学校父母と教師の会 ぐるっと湖南・伝承会 【施設】 福島市吉井田学習センター 郡山市立日和田公民館 矢祭もったいない図書館	11月2日	
全国社会教育委員連合	相馬地区社会教育委員連絡協議会 遠藤百合江 氏 前東白川地区社会教育委員連絡協議会 佐川 彗雄 氏	10月20日	一般社団法人全国社会教育連合会会長
日本PTA全国協議会	【団体】 大熊町立大熊中学校PTA いわき市立田人小中学校父母と教師の会 【個人】 福島県PTA連合会前副会長 梅津 司 氏 福島県PTA連合会前副会長 諏訪 秀一 氏	11月18日	（公社）日本PTA全国協議会会長
東北地区社会教育委員連絡協議会	村田 由美（本宮市） 本田 正弘（三春町） 今野登志子（白河市） 植村寿美子（棚倉町） 内海 英男（北塩原村） 渡部 啓子（新地町）	10月20日	東北地区社会教育委員連絡協議会

平成29年度福島県社会教育施設行事予定

福島県立図書館	福島県立美術館	福島県立博物館	福島県自然の家
<p>○ふくしまを知る連続講座（2回）</p> <p>①平成29年6月18日（日） 「縄文時代の年代Ⅱ」（仮題） 講師：まほろん学芸員</p> <p>②平成30年1月予定 講師：福島県歴史資料館学芸員</p> <p>○県内文化施設等による移動展示（3回）</p> <p>①平成29年5月3日（水）～31日（水） 日本赤十字社福島県支部</p> <p>②平成29年6月2日（金）～7月5日（水） まほろん 「縄文時代の年代Ⅱ」（仮題）</p> <p>③平成30年1月5日（金）～2月12日（月） 福島県歴史資料館</p> <p>※ 日時・テーマ等が決まりましたら、随時お知らせしますので、当館ホームページ等でご確認ください。</p>	<p>○国立西洋美術館名品展 平成29年4月22日（土）～7月2日（日）</p> <p>○ラルティーク展 平成29年7月22日（土）～9月10日（日）</p> <p>○斎藤清展 平成29年10月7日（土）～12月10日（日）</p> <p>○シリーズGallery F2018 コレクション再発見展 平成30年2月3日（土）～3月4日（日）</p> <p>○長谷川利行展 平成30年3月24日（土）～5月13日（日）</p>	<p>○自然をうつす-漆芸家・関谷浩二が挑んだ漆表現の可能性- 平成29年4月29日（土）～6月4日（日）</p> <p>○ふくしま500年の自然史（仮称） 平成29年7月15日（土）～9月18日（日）</p> <p>○発掘ふくしま4-土中の声に耳をすませば- 平成29年10月7日（土）～11月26日（日）</p>	<p>○郡山自然の家オーブンデー 平成29年4月30日（日）</p> <p>○会津自然の家オーブンデー 平成29年5月14日（日）</p> <p>○いわき自然の家オーブンデー 平成29年5月28日（日）</p> <p>※ 詳しくは各自然の家ホームページをご覧ください。</p>

編 集 後 記

今年度から「優れた『地域による学校支援活動』推進にかかる文部科学大臣表彰」が「『地域学校協働活動』推進に係る文部科学大臣表彰」と代わりました。「学校を地域が支援する」という仕組みから、「地域と学校が対等に協働する」というしくみが求められているのです。今後、高齢社会では、大人の学びや生きがいがいづくりも、社会教育の大きな視点になるのではないかと思います。子どもたちのためと大人のためが対等に互恵関係を育む学びの仕組みづくりが社会教育で求められてくるのではないのでしょうか。

最後に、日々御活躍されている皆様から、大変お忙しい中、第337号「社会教育」に御執筆いただきましたことに対し、心から感謝申し上げますとともに、読者の皆様がそれぞれの地域や立場でより一層活躍されることをお祈りいたします。



平成 29 年 3 月吉日発行

社会教育 No. 337

編 集 社会教育課

発 行 福島市杉妻町 2-16

福島県教育委員会